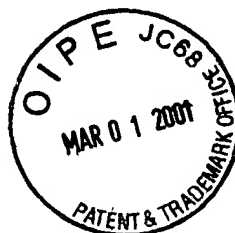


#7

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of : ATTN: BOX MISSING PARTS
Katsuei TANABE et al. : Docket No. 2000-1686A
Serial No. 09/732,729 :
Filed December 11, 2000 :
PACKAGING CONTAINER



CLAIM OF PRIORITY UNDER 35 USC 119

Assistant Commissioner for Patents
Washington, DC 20231

Sir:

Applicants in the above-entitled application hereby claim the date of priority under the International Convention of Japanese Patent Application No. 1999-350018, filed December 9, 1999, as acknowledged in the Declaration of this application.

A certified copy of said Japanese Patent Application is submitted herewith.

Respectfully submitted,

Katsuei TANABE et al.

By

A handwritten signature in cursive script, likely belonging to Nils E. Pedersen.

Nils E. Pedersen
Registration No. 33,145
Attorney for Applicants

NEP/krl
Washington, D.C. 20006
Telephone (202) 721-8200
March 1, 2001

THE COMMISSIONER IS AUTHORIZED
TO CHARGE ANY DEFICIENCY IN THE
FEES FOR THIS PAPER TO DEPOSIT
ACCOUNT NO. 23-0975

日 本 国 特 許 庁

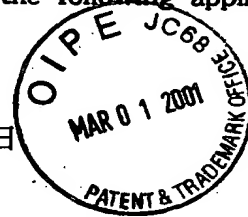
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

1999年12月 9日



出 願 番 号
Application Number:

平成11年特許願第350018号

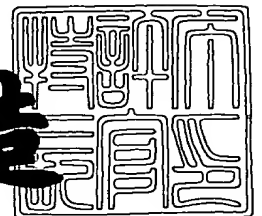
出 願 人
Applicant (s):

株式会社ブルボン

2000年12月15日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3104544

【書類名】 特許願

【整理番号】 12263701

【提出日】 平成11年12月 9日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B65D 1/00

【発明の名称】 包装用容器

【請求項の数】 7

【発明者】

 【住所又は居所】 新潟県柏崎市松波四丁目2番14号 株式会社ブルボン
 内

 【氏名】 田 辺 勝 英

【発明者】

 【住所又は居所】 新潟県柏崎市松波四丁目2番14号 株式会社ブルボン
 内

 【氏名】 浅 野 和 男

【発明者】

 【住所又は居所】 新潟県柏崎市松波四丁目2番14号 株式会社ブルボン
 内

 【氏名】 高 橋 広 栄

【特許出願人】

 【識別番号】 591096303

 【住所又は居所】 新潟県柏崎市松波四丁目2番14号

 【氏名又は名称】 株式会社 ブルボン

【代理人】

 【識別番号】 100064285

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 佐 藤 一 雄

【選任した代理人】

 【識別番号】 100091982

【弁理士】

【氏名又は名称】 永 井 浩 之

【選任した代理人】

【識別番号】 100096895

【弁理士】

【氏名又は名称】 岡 田 淳 平

【選任した代理人】

【識別番号】 100082751

【弁理士】

【氏名又は名称】 黒 瀬 雅 志

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 004444

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 包装用容器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

頂部とその反対側に開口部を有する略逆錐体形状の容器本体と、前記容器本体を密封する蓋体とを備える包装用容器であって、

前記容器本体の外周面に取り外し可能に嵌合固定する錐台リング形状に形成された外装リング体を備え、

前記外装リング体は、前記容器本体の外周面に嵌合固定された前記外装リング体を取り外し反転して前記容器本体の頂部側に嵌合したとき置き台となるようにしたことを特徴とする包装用容器。

【請求項 2】

前記外装リング体は、前記外装リング体の嵌合固定時にその小径側端部で前記容器本体の外周面に固定されていることを特徴とする請求項 1 に記載の包装用容器。

【請求項 3】

前記外装リング体は、前記外装リング体の嵌合固定時にその小径側端部で前記容器本体の外周面に軟接着されていることを特徴とする請求項 2 に記載の包装用容器。

【請求項 4】

前記容器本体の外周面に突起部を形成し、前記外装リング体の嵌合固定時にその小径側端部で前記容器本体の外周面の前記突起部に係合することを特徴とする請求項 2 に記載の包装用容器。

【請求項 5】

前記外装リング体は、前記外装リング体を反転して前記容器本体の頂部側に嵌合したとき前記頂部が接地面より浮上し得る軸線方向長さを有することを特徴とする請求項 1 に記載の包装用容器。

【請求項 6】

前記突起部は、前記容器本体の軸線方向の中間位置よりも前記頂部側の位置に

形成されていることを特徴とする請求項 4 に記載の包装用容器。

【請求項 7】

前記突起部は、前記容器本体の軸線に直交する線上に複数個断続的に形成されているかあるいは連続的にリング状に形成されているかすることを特徴とする請求項 4 に記載の包装用容器。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、包装用容器に係り、特に、菓子を収容する容器本体と容器本体を密閉可能な蓋体とを備える包装用容器に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

菓子用容器として略逆錐体形状の頂部と反対側に開口部を有する容器本体と、容器本体を密封する蓋体とを備える包装用容器が知られている。また、容器本体の側部には、菓子の絵や商標等を表示したラベルが貼られているものもある。

【0 0 0 3】

このような菓子用容器では、一方の手で容器本体の側部を持ち他方の手で収納された菓子を取り出しながら食べることが行われていた。

【0 0 0 4】

【発明が解決しようとする課題】

このような菓子用容器は、容器本体が略逆錐体形状であるため、テーブル等の上に単独には菓子用容器を置くことができなかった。また、テーブル等の上に菓子用容器を置くためには、スタンド等で受けて置く必要があった。

【0 0 0 5】

そこで、本発明の目的は、上記従来技術の有する問題を解消し、容器本体が略逆錐体形状であるにもかかわらず、接地面に単独で置くことができ、手で持たなくとも菓子等を賞味可能な包装用容器を提供することである。

【0 0 0 6】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明の包装用容器は、頂部とその反対側に開口部を有する略逆錐体形状の容器本体と、前記容器本体を密封する蓋体とを備える包装用容器であって、前記容器本体の外周面に取り外し可能に嵌合固定する錐台リング形状に形成された外装リング体を備え、前記外装リング体は、前記容器本体の外周面に嵌合固定された前記外装リング体を取り外し反転して前記容器本体の頂部側に嵌合したとき置き台となるようにしたことを特徴とする。

【0007】

上述の発明において、販売時に外装リング体は容器本体の外周面に嵌合固定されているが、外装リング体を取り外し反転して容器本体の頂部側に嵌合することによって置き台として機能させることができ、容器本体が略逆錐体形状であるにもかかわらず、接地面に単独で置くことができる。

【0008】

また、前記外装リング体は、前記外装リング体の嵌合固定時にその小径側端部で前記容器本体の外周面に固定されていることを特徴とする。これによって、外装リング体は錐台リング形状に形成されているので、外装リング体は、嵌合固定時に大径側端部で直接的に固定することなく小径側端部でのみ容器本体の外周面に固定することで十分であるので、容易に取り外すことができる。

【0009】

また、前記外装リング体は、前記外装リング体の嵌合固定時にその小径側端部で前記容器本体の外周面に軟接着されていることを特徴とする。これによって、外装リング体を容易に取り外して、反転させて置き台として機能させることができる。

【0010】

また、前記容器本体の外周面に突起部を形成し、前記外装リング体の嵌合固定時にその小径側端部で前記容器本体の外周面の前記突起部に係合することを特徴とする。これによって、外装リング体の小径側端部を突起部に係合させることにより、外装リング体を容器本体の外周面に嵌合固定することができ、また容易に引き抜いて取り外して反転させて置き台として機能させることができ、さらに、置き台として機能していた状態から再び外装リング体を容器本体の外周面に容易

に嵌合固定することができる。

【0011】

前記外装リング体は、前記外装リング体を反転して前記容器本体の頂部側に嵌合したとき前記頂部が接地面より浮上し得る軸線方向長さを有することを特徴とする。これによって、外装リング体を置き台として機能させたときに、容器本体の頂部が接地面に接触しないようにすることができる。

【0012】

また、前記突起部は、前記容器本体の軸線方向の中間位置よりも前記頂部側の位置に形成されていることを特徴とする。これによって、容器本体の頂部が接地面に接触しないように、外装リング体の小径側端部を突起部に係合させることができる。

【0013】

また、前記突起部は、前記容器本体の軸線に直交する線上に複数個断続的に形成されているかあるいは連続的にリング状に形成されているかすることを特徴とする。これによって、突起部を機能的だけではなく美観を呈するように意匠的にも活用することができる。

【0014】

【発明の実施の形態】

以下に図面を参照して、本発明に係る包装用容器の実施の形態について説明する。

【0015】

図1乃至図5に示すように、包装用容器1は、容器本体2と蓋体3と外装リング体4とから構成されている。

【0016】

容器本体2は頂部5と反対側に開口部6を有する略逆錐体形状に形成されている。容器本体2の外周面には長手方向に開口部6から中間部に至る8本の意匠的な模様を構成する凹状のスリット7が形成されている。

【0017】

容器本体2の外周面にはまた、容器本体2の軸線に直交する線上に、数個、例

例えば 6 個の半球状の小さな突起 8 が形成されている。突起 8 は、容器本体 2 の軸線方向の中間位置よりも頂部 5 側の位置に形成されている。突起 8 は、容器本体 2 の軸線に直交する線上に美観を呈するように複数個断続的に分布してもよく、あるいは連続的にリング状に形成されていてもよい。突起 8 は、後述するように、外装リング体 4 の小径側端部に係合可能に機能的であるとともに、模様等を形成して美観を呈するように意匠的要素を兼ねるように形成することが可能である。

【 0 0 1 8 】

容器本体 2 内には、図 1 に示すようにあられ菓子粒等のスナック菓子 1 5 が収納されている。

【 0 0 1 9 】

蓋体 3 は容器本体 2 を開閉可能に開口部 6 を密封するものである。蓋体 3 の上側面には摘み部 3 a が形成されており、摘み部 3 a を指で把持して開口部 6 の開閉が行われる。

【 0 0 2 0 】

外装リング体 4 は、紙等のシート材によって側面の両端が接着され、小径側端部と大径側端部とを有するように錐台リング状に形成されている。外装リング体 4 は、例えば、菓子の絵や商標等を表示されたラベルとしても機能可能である。図 1 等においては、外装リング体 4 の表面に記載される絵や商標等の表示を省略してある。

【 0 0 2 1 】

図 3 に示すように、外装リング体 4 の包装用容器 1 の開封前にあっては、小径側端部は突起 8 の上側に係合しており、大径側端部は容器本体 2 の外周面の開口部 6 近傍に接着等されることなく自由な状態で密着されている。外装リング体 4 は錐台リング形状に形成されているので、嵌合固定時に大径側端部で直接的に固定することなく小径側端部でのみ容器本体 2 の外周面に固定することで全体をしっかりと容器本体 2 に嵌合固定することができるとともに、容易に取り外すことができる。

【 0 0 2 2 】

外装リング体 4 は所定の軸線方向長さを有し、この所定の軸線方向長さは、外装リング体 4 を反転して容器本体 2 の頂部 5 側に嵌合したとき頂部 5 が接地面より浮上し得るように設定されており、例えば、外装リング体 4 の軸線方向長さの半分より大きい長さを有する。

【0023】

外装リング体 4 は頂部 5 の方へ引き下げられることによって外装リング体 4 の小径側端部は突起 8 との係合が解かれ、取り外すことが可能である。外装リング体 4 は容器本体 2 の外周面に嵌合固定された状態から取り外されて反転され、小径側端部を容器本体 2 の頂部 5 側から挿入可能である。外装リング体 4 は、その小径側端部が突起 8 の下側に係合し、外装リング体 4 は容器本体 2 に嵌合することが可能である。そして、図 1 に示すように、外装リング体 4 は置き台として機能する。また、容器本体 2 内にスナック菓子 15 を一部残し、後で再び食そうと思うときは、図 1 に示す状態から外装リング体 4 を取り外し、反転して図 3 に示すように容器本体 2 に外装リング体 4 を嵌合し、蓋体 3 で容器本体 2 を閉じればよい。

【0024】

以上説明したように、本実施の形態によれば、容器本体 2 が略逆錐体形状であるにもかかわらず、外装リング体 4 を転用することにより、接地面に単独で置くことが可能になる。

【0025】

外装リング体 4 は菓子の絵や商標等を表示されたラベルとしても機能可能でるとともに、置き台としても転用することが可能になる。

【0026】

外装リング体 4 は、小径側端部が突起 8 の上側に係合されているだけであるので、容易に取り外して図 2 に示すように置き台として機能させることができ、また必要に応じて再び図 3 に示すように容器本体 2 に嵌合させることができる。

【0027】

次に、図 6 に変形例を示す。

【0028】

図6に示すように、容器本体2の外周面に突起8を設けて外装リング体4を突起8に係合することに代えて、外装リング体4の嵌合固定時にその小径側端部10で容器本体2の外周面に接着剤等で軟接着するようにしてもよい。この場合、外装リング体4に軽く力を加えて容器本体2の外周面から取り外し、反転させて頂部5から挿入して置き台として機能させることができる。外装リング体4は、錐台リング状に形成されているので、反転して頂部5から挿入することにより、突起8がなくとも、外装リング体4の小径側端部を容器本体2の外周面に係合させることができる。なお、置き台として機能させてから再び元に戻そうとしても小径側端部10を再び軟接着することは煩雑である。従って、図6に示す場合の例は、容器本体2内にスナック菓子15を残すことなく全部食べることを前提とする場合に有効である。

【0029】

なお、上述の説明において、包装用容器を菓子用の容器として説明したが、本発明はこれに限らず、例えば、漬物等の他の物を収容する包装用容器であってもよい。

【0030】

【発明の効果】

以上のように、本発明の構成によれば、外装リング体をラベル体や置き台として多機能的に機能させることができ、容器本体が略逆錐体形状であるにもかかわらず、接地面に単独で置くことができ、手で持たなくとも菓子等を賞味可能な包装用容器を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明に係る包装用容器の開封時の一実施形態を示す使用状態を示す斜視図。

【図2】

図1に示す場合において、開けた蓋体を示す斜視図。

【図3】

本発明に係る包装用容器の閉封時の一実施形態を示す斜視図。

【図4】

図 5 において A - B - C に沿って切り取った図 3 に対応する断面図。

【図 5】

蓋体を示す平面図。

【図 6】

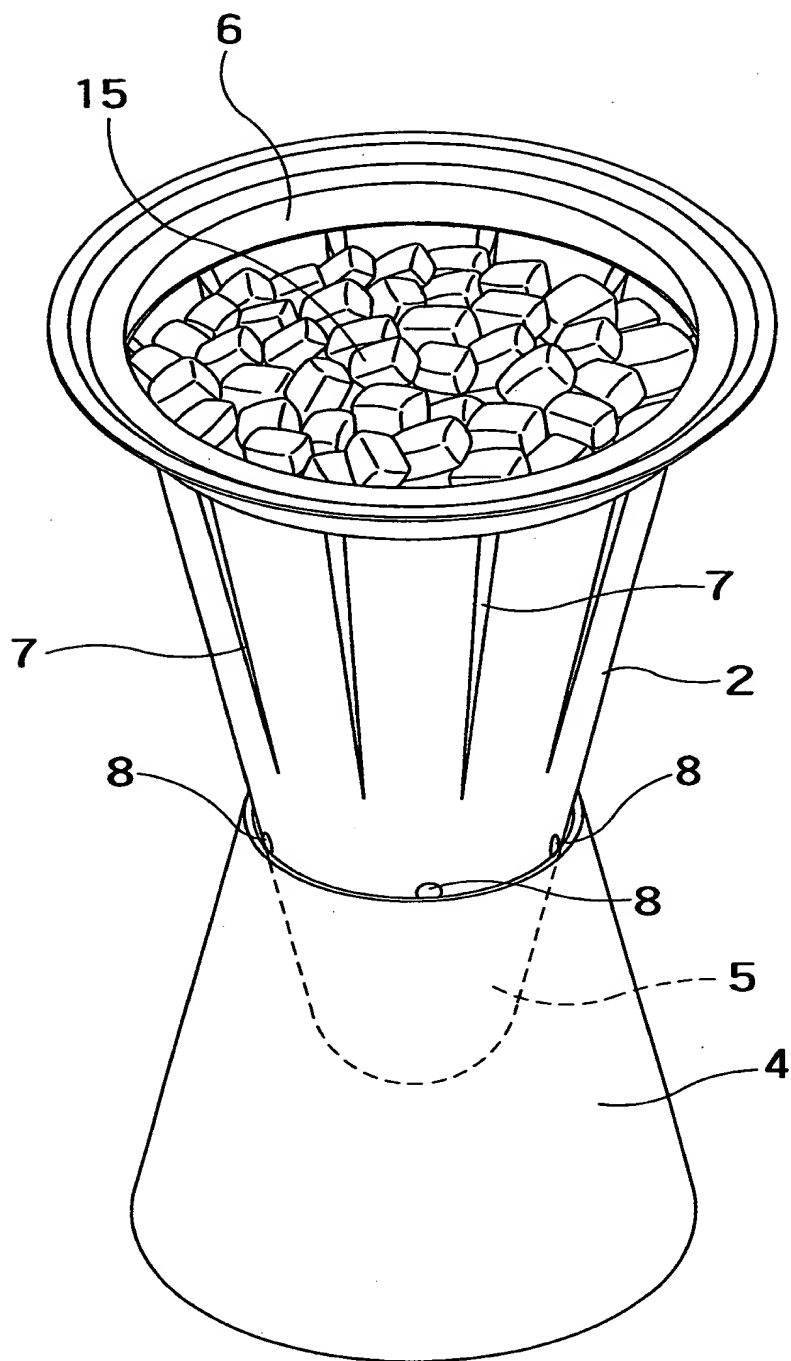
本発明に他の実施形態を示す平面図。

【符号の説明】

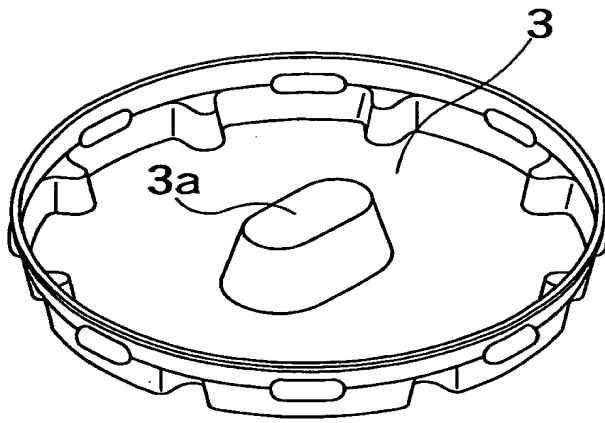
- 1 包装用容器
- 2 容器本体
- 3 蓋体
- 4 外装リング体
- 5 頂部
- 6 開口部
- 8 突起
- 10 小径側端部

【書類名】 図面

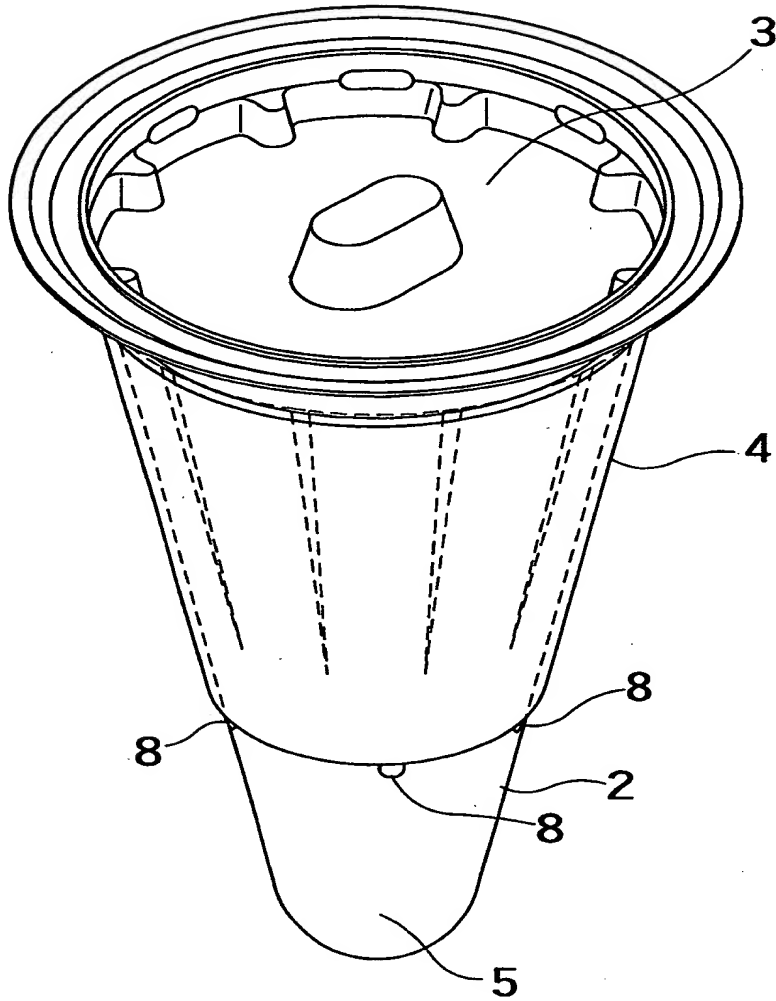
【図 1】



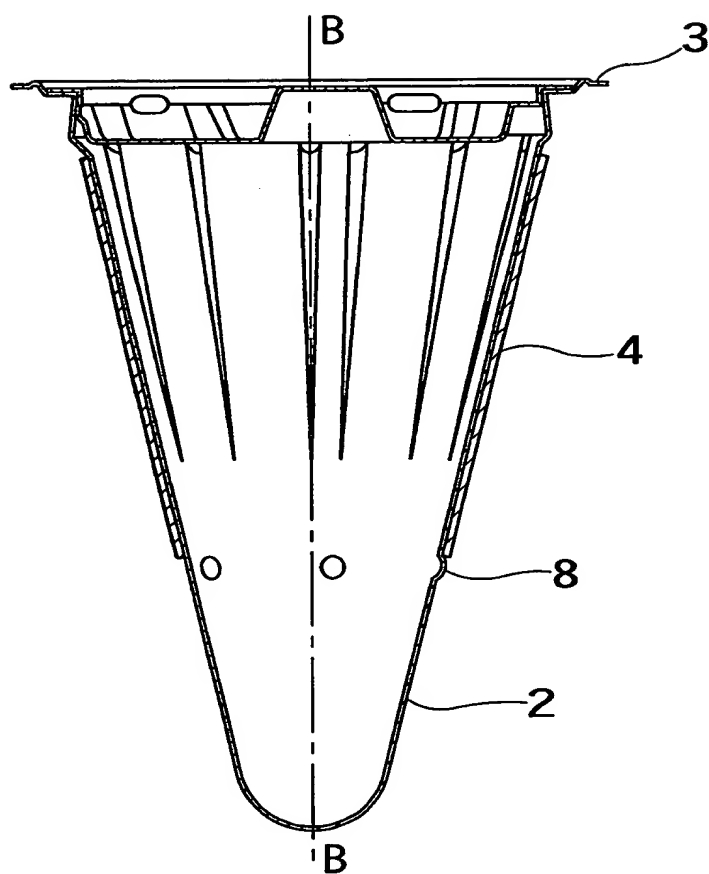
【図 2】



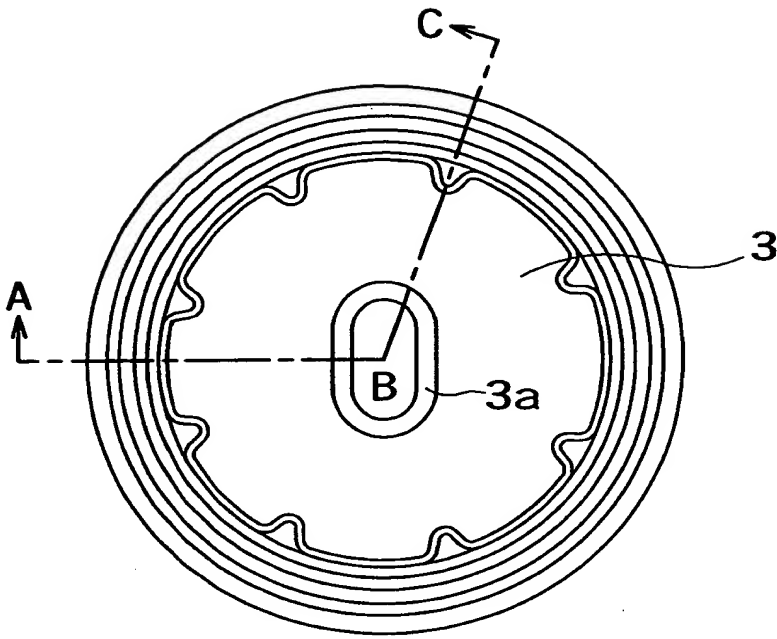
【図 3】



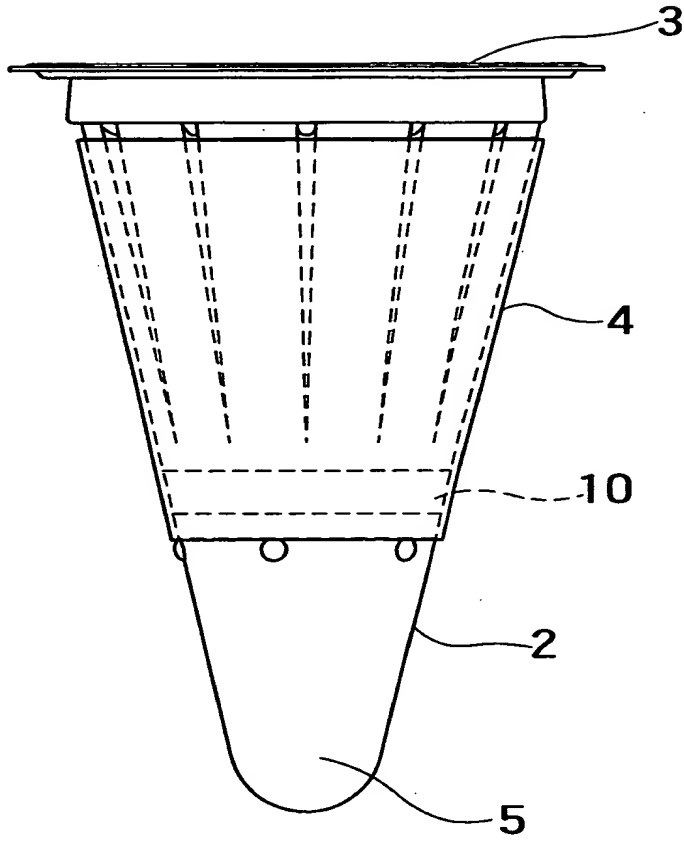
【図4】



【図 5】



【図6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 容器本体が略逆錐体形状であるにもかかわらず、接地面に単独で置くことができ、手で持たなくとも菓子等を賞味可能な包装用容器を提供する。

【解決手段】 頂部（５）とその反対側に開口部（６）を有する略逆錐体形状の容器本体（２）と、容器本体を密封する蓋体（３）とを備える包装用容器（１）であって、容器本体の外周面に取り外し可能に嵌合固定する錐台リング形状に形成された外装リング体（４）を備え、外装リング体は、容器本体の外周面に嵌合固定された外装リング体を取り外し反転して容器本体の頂部側に嵌合したとき置き台となるようにしたことを特徴とする。容器本体（２）の外周面に突起部（８）を形成し、外装リング体の嵌合固定時にその小径側端部で容器本体の外周面の突起部（８）に係合することを特徴とする。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	平成 11 年 特許願 第 350018 号
受付番号	59901201302
書類名	特許願
担当官	唐木 敏朗 7396
作成日	平成 11 年 12 月 13 日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】	591096303
【住所又は居所】	新潟県柏崎市松波 4 丁目 2 番 14 号
【氏名又は名称】	株式会社ブルボン

【代理人】

申請人

【識別番号】	100064285
【住所又は居所】	東京都千代田区丸の内 3-2-3 富士ビル 協 和特許法律事務所内

【氏名又は名称】	佐藤 一雄
----------	-------

【選任した代理人】

【識別番号】	100091982
【住所又は居所】	東京都千代田区丸の内 3 丁目 2 番 3 号 富士ビル 協和特許法律事務所

【氏名又は名称】	永井 浩之
----------	-------

【選任した代理人】

【識別番号】	100096895
【住所又は居所】	東京都千代田区丸の内 3 丁目 2 番 3 号 協和特許 法律事務所内

【氏名又は名称】	岡田 淳平
----------	-------

【選任した代理人】

【識別番号】	100082751
【住所又は居所】	東京都千代田区丸の内 3-2-3 協和特許法律 事務所

【氏名又は名称】	黒瀬 雅志
----------	-------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [591096303]

1. 変更年月日	1991年 5月10日
[変更理由]	新規登録
住 所	新潟県柏崎市松波4丁目2番14号
氏 名	株式会社ブルボン